

平成24年5月の解説（府県天気予報）

【5月の天候状況】

上旬は、北・東日本では低気圧や上空の寒気の影響で、ぐずついた天気となり、2日から3日にかけては本州南岸を東進した低気圧と前線の影響で北・東日本の太平洋側で記録的な大雨となった所がありました。また、旬の後半には、上空に強い寒気が流れ込んだ影響で、北日本から西日本では所々で雷雨となり、6日には茨城県、栃木県、福島県で竜巻が発生しました。沖縄・奄美では、旬のはじめとおわりに低気圧や梅雨前線の影響で曇りや雨となった所がありましたが、その他の日は概ね晴れました。

中旬は、日本付近を低気圧や高気圧が交互に通過し、北日本から西日本にかけて、天気は数日の周期で変わりました。北日本では旬のはじめに寒気や東からの湿った気流の影響を受け、ぐずついた天気の所がありました。東日本では、北からの高気圧に覆われることが多く晴れの日が多くなりました。沖縄・奄美では、梅雨前線や太平洋高気圧の縁辺を回って湿った気流が入り、曇りや雨の日が多くなりました。

下旬は、北日本から西日本にかけて、旬のはじめは日本の南海上を低気圧が通過した影響で北日本から西日本の太平洋側では曇りや雨の所が多くなりました。旬の後半は上空の寒気の影響によって大気の状態が不安定となり、所々で雷雨となりました。沖縄・奄美では、旬の前半は梅雨前線の影響が弱く晴れの日が多くなりました。

月平均気温は、全国的に平年並となりました。月降水量は、北日本の日本海側で平年並、太平洋側でかなり多くなりました。東日本の日本海側では少なく、太平洋側で多くなりました。西日本ではかなり少くなりました。沖縄・奄美では平年並でした。月間日照時間は、北日本で少なく、東日本の太平洋側で多くなりました。東日本の日本海側と西日本、沖縄・奄美では平年並でした。

【5月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は85%で例年値^(注)と同じになり、明後日予報も例年値と同じ81%でした。各地方の適中率では、明日予報は中国地方、九州北部地方及び沖縄地方で例年値より4～6ポイント高くなりましたが、東海地方と近畿地方では8ポイント低くなりました。明後日予報は関東甲信地方と九州北部地方で例年値より4ポイント高くなりましたが、東北地方、北陸地方及び近畿地方で6～9ポイント低くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国的に例年値より小さく、東北地方と関東甲信地方で例年値より0.6℃小さくなり、北陸地方では0.9℃小さくなりました。全国平均は例年値より0.4℃小さい1.6℃でした。最低気温の予報誤差は、沖縄地方で例年値と同じになりましたが、その他の地方では例年値より小さく、全国平均は例年値より0.3℃小さい1.2℃でした。

(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【7月の天気予報の利用にあたって】

平年では、7月の中旬から下旬にかけて九州から東北地方において梅雨明けとなり、梅雨明け後は本格的な夏が始まります。しかし、7月は梅雨末期の大雨が降りやすい時期であり、大きな災害が発生することもあります。

梅雨末期の大雨は、長時間の雨により総降水量が多くなることに加えて、短時間での強雨により大きな災害や被害をもたらすことがあります。このような天気が予想される場合は、各地の気象台が発表する最新の気象情報や警報・注意報などに留意し、防災対策に活用して下さい。